

ホワイトデーイベント



○ホワイトデーイベントは今年も皆さんが大好きなハンバーガーセットが用意され、大きなバンズを口



お花見

明日香の歴史公園方面に向けてお花見に出かけました。

朝からお弁当を作ってもらって、みんなニコニコで出発です。

当日公園には桜が咲いていなくて、少し残念でしたが、道中ではあちらこちらに沢山桜を見ることが出来て結果オーライです（笑）

お昼のお弁当タイムには、今年入所した新メンバーさんの自己紹介と新しいスタッフ

いっぱいにはお張り笑顔があふれる食事となりました。

○食事の後は各班に分かれてショッピングモールにお出かけし、ワイワイと楽しい一日を過ごすことが出来ました。



さんの紹介などで盛り上がりました。

ワイワイガヤガヤ美味しいなあ♪とお弁当を頼張

りながら楽しくおしゃべり、その後各班で各々お買い物や散策に楽しんで過ごしてきました。

令和8年4月2日



ふきのとう祭り

5月28日にふきのとう祭りを『ふきのとう』『サントアースⅡ』『ハナミズキ』3施設合同で開催しました。

今年のランチメニューはカレーライス・フランクフルト・唐揚げ・マカロニサラダ、核施設同じメニューで食べておいしかったです。

またゲーム会場をハナミズキで行い、千本



令和8年5月28日

引き・輪投げ・お好み焼き返し、風船バッティングのゲームをメンバー・スタッフ一緒に一つずつ順番に回り、楽しく過ごしました。最後にお楽しみくじ引き大会をして、一人一人商品を受け取り、見せ合ったりして楽しい時間を過ごしました。



編集人 社会福祉法人ふきのとう ふきのとう便り編集委員会
連絡先 〒632-0052 奈良県天理市柳本町 2036 番地 1 TEL 0743-67-1099 FAX 0743-84-7738
HP <http://www.fukinotou.or.jp/> Instagram https://www.instagram.com/fukinotou_tenri
E-Mail fukinotou1099@fukinotou.or.jp X <https://x.com/hukinotou1g55>
発行人 関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪府大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4F 定価：10 円



今年71歳 老いを考える・・・

人の名前が出てこない、新聞やパソコンの字が見づらい、普通に歩いているつもりだが追い抜かれる、公園で5歳の孫とかけっこをするがついていけない、階段よりエレベーターエスカレーターを選んでしまう、電車に乗ると空席を探して座ろうとする、夜遅くまで起きていられない、用事の予定を忘れることがある（何度も手帳を確認することで大事には至っていない）、食事、お酒の量が減った等、さまざま老いを感じる今日この頃です。

そこで、老いについて考えていると、朝日新聞に、なぜヒトにだけ「老い」とは何かの見出しで、作家の高橋源一郎さんの寄稿記事を見つけた。その内容は、今ベストセラー本の多くは「老い」をテーマにしているそうだが、それだけ高齢者が感心を持っていることだろうか、さらに東京大学の小林武彦教授は「ヒト以外のほとんどの生物にとって老化期間は短い、ほとんどありません」と言われており、「なぜヒトだけが？」という問いに対して、進化論的説明として、有力な仮説の一つは『おばあちゃん仮説』というものです。母親の産後、子育てを助ける『おばあちゃん』がいる集団は、長い目で見て、子孫を増やすことに適していた。そんな『変化と選択』の果てにヒトは

社会福祉法人ふきのとう 監事 滝口 健次

長寿になったと言われています。さらに生物学的な『老い』とは別に、ヒトは社会的に老いて『シニア』になります。かつて、『シニア』が人類の寿命を延ばしたように、いまま『シニア』は大きな役割を果たすことができるのではないのでしょうかとも言われています。老いることも悪いことではないのかと感じます。もうひとつ、「老い」に関する本を紹介しします。生物学者の池田晴彦氏の「老いと死の流儀」です。「老いる」ということを生物学的にとらえて、「人間の本来の寿命は38歳」「定年は社会が押しつける老いの象徴」「人生の意味から解放されれば楽になる」など、あらゆる角度から分析されている内容で興味深く読みましたが、最終的には、老いはそもそも「仕方のないこと」なので「仕方のないこと」だとあっさり認めて、今の自分にとってちょうどいいこと、つまり「適当なこと」を無理なく楽しむのが賢いのではないのでしょうか、結局「いい加減くらいがちょうどいい」「適当に生きるのがいちばんいい」と締めくくられています。しかし、私は、仕事もしているし、責任と老いを感じながら、適当に生きることを目指しながら生きていくことにします。

ふきのとうの動き

令和8年

12月15日 わかくさ福祉寄金より
オープンレンジの助成
12月23日 クリスマス会
25日・26日 大掃除
27日～令和8年1月4日

冬季休業

1月5日 初詣・お節会
2月12日 バレンタインイベント
3月16日 健康診断
3月18日 ホワイトデーイベント

しょうがいしゃふくこうしせつ しょうこうしき 障害者複合施設 竣工式！

れいわ ねん がつ にち
令和8年4月9日

竣工式
御来賓あいさつと見学会

施設設備



令和8年4月9日（大安）晴天の中、障害者複合施設の竣工式を迎えることができました。お忙しいところ貴重な時間をとって頂き、たくさんの方のご参加により盛大な竣工式が行われたことを嬉しく思っています。

建設開始（令和7年7月）から「令和8年2月末には必ず完成」が条件という状況下、資材不足や建設現場での人手不足への対応等様々な困難なことを設計会社と施工業者が見事に対応していただいたことに深く感謝いたします。

当法人は、日中は「ふきのとう」、「サントアースⅡ」で活動し、夜間は近隣（柳本）のケアホームで過ごすサービスを提供しています。法人化以降、法人の経営は順調に推移しています。日中の場も夜間の場も拡大してきたこと、メンバーやスタッフの頑張り、メンバーのご家族様の御協力のおかげと思っています。

しかしながら、10年、20年前に比べるとメンバーさんも高齢化・重度化、建物や設備も今のニーズに合致しているのかという課題もできています。そんな中、同一敷地内での「日中活動系サービス事業所」と「共同生活

援助事業所の共同生活住居」の併設を認める法律ができたことを知り、「住」の場から「活動」の場への移動を楽しむ快適な施設で、あわせて災害時に耐えうる新しい施設を建設いたしました。

1階は日中活動の場の生活介護事業所（ハナミズキ）、2階は夜間の場（グループホーム桜草）。ハナミズキ（花言葉は永続性、ゆっくりと着実に成長する）というネーミングは、職員から応募した中で一番人気で決まりました。グループホーム桜草は、ふきのとうの創設時の名前で時代とともになくなりましたが再スタートの意味も込めて名前が復活しました。

4月29日、柳本町（ひばりヶ丘北自治会）の住民21名が見学に来られ、災害発生時に避難所としての受け入れ機能があることや、地域交流機能を備えていることを理解していただきました。また5月20日には柳本地区民生児童委員の方々が新施設見学に来られました。

新しくできた障害者複合施設では、メンバーが生活の質を保ち、主人公となり、地域とともに育つ施設を目指していきたいと強く思います。

ひばりヶ丘北自治会
見学会



障害者複合施設完成までのあゆみ ※施設関連です

平成 9 年 4 月 1 日	障害者グループホーム桜草開設
平成 15 年 4 月 1 日	障害者グループホーム第2桜草開設
平成 16 年 4 月 1 日	障害者グループホームいただき開設
平成 19 年 5 月 1 日	社会福祉法人認可
平成 19 年 10 月 1 日	多機能型障害福祉事業所「障害者支援センターふきのとう」開設
平成 24 年 4 月 1 日	ケアホームスパークル（個室タイプ）開設
平成 24 年 4 月 2 日	生活介護棟サントアース増設
平成 27 年 1 月 5 日	生活介護事業所サントアースⅡ開設
平成 27 年 4 月 1 日	ケアホームスパークルⅡ開設
	ケアホーム第2桜草第2いだだきに改称
	ケアホーム桜草を第3いだだきに改称のうえ、男性グループホームに変更

令和元年～令和 5 年 新施設建設予定地の土地を2期にかけて購入

令和 6 年 11 月 1 日～令和7年3月25 日

障害者複合施設開発（造成）工事

令和 7 年 7 月 1 日～令和8年2月末

障害者複合施設建設工事

令和 8 年 4 月 9 日 障害者複合施設竣工式

令和 8 年 5 月 1 日 障害者複合施設（1 階 生活介護事業所ハナミズキ、2 階 グループホーム桜草）開所

建設時の様子



奈良新聞と 福祉新聞の報道



障害者複合施設が完成



奈良・天理市 ふきのとう

奈良県天理市にある社会福祉法人ふきのとう（松田勝義理事長）が生活介護事業所とケアホーム（GH）を併設した障害者複合施設を竣工式を行い、5月1日から本格稼働する。1階の生活介護事業所「ハナミズキ」は地域交流スペースを設けたのが特徴で、災害時には地域住民を避難させる機能も備える。貯水タンクのほか、外部支援が本格化するまでの期間の稼働が可能な自家発電設備を備えている。2階のGH「桜草」は入所6人、短期入所施設も設けられる。施設利用は、山や花火を見るのが楽しみで「風呂に足伸ばして入るのがいい」と話しており、利用開始を心待ちにしている。同法人は2007年5月1日に設立。就労継続支援B型事業所（定員10人）と生活介護事業所（同40人）やGH（同30人）を運営している。（濱本高佑）